

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	マザーズ野洲		
○保護者評価実施期間	2026年1月8日		2026年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37名 (内兄弟児6名)	(回答者数) 25名
○従業員評価実施期間	2026年1月8日		2026年1月31日
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月6日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み (※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	放課後等デイサービス運営にかかるガイドラインを遵守した事業所の運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全社統一での社内研修会の実施</li> <li>・ コンプライアンス意識徹底のため社内会議実施</li> <li>・ マザーズ別事業所からの毎月の事務処理確認</li> </ul>	社員全員が同一レベルで事務処理遂行できるようにするために各委員に所属して制度の認識向上を図る
2	保護者との密な情報共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社内コミュニケーションツール：Bridgeの活用</li> <li>・ マザーズ新聞の発刊：関係機関への配布等</li> <li>・ 療育活動周知：ブログによる発信（月1回）</li> <li>・ 送迎時における保護者とのコミュニケーション実施</li> </ul>	保護者会やセミナーの開催により、育児への手助けとなるような情報発信を図る
3	児童発達支援管理責任者を中心とした、児童支援にかかる質の向上に向けた取り組み 必要な児童を対象とした専門的支援の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童支援の振り返り実施</li> <li>・ PDCAで児童支援における質の向上</li> <li>・ 専門的支援実施の計画的な遂行</li> </ul>	PDCAを繰り返し実施することで職員全員における均一の支援提供を可能としていく

	事業所の弱み (※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の児童（子供）との交流機会が不十分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害を持つことをオープンにしたいくないご家庭があることや、保護者ニーズも低いことが要因として挙げられる</li> </ul>	必然的に子供同士がコミュニケーションをとれるような地域が主催するイベント、特に子供が主体となるようなイベントへの参加を検討する
2	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営が不十分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現状の体制では地域住民を招待するようなイベント実施は困難であり、上記と同様に保護者からオープンにしたいくない要望やニーズが低いことも実施困難の理由となる</li> </ul>	外部の方の参加は困難であるが、祖父母や兄弟が参加できるようなイベントを引き続き実施していきたい
3	非常時の対応周知が不十分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者連絡用アプリケーションにて閲覧可能であることの周知が定期的に発信されていないため</li> </ul>	半年を目途に閲覧を促すような連絡をしていく また、内容が更新された場合に連絡をしていく